

意見交換の議事録と参加者の皆様からのご意見・ご質問とその回答

- 食安委
- 群馬県
- △ 生協連 中嶋会長
- ▽ 生協連 林理事
- ▼ NPO法人 矢島理事
- 司会

【パネルディスカッション】

● 食品安全委員会のまとめた放射性物質に係る健康影響評価結果について、どのように受け止めていらっしゃるか、ご意見をお聞かせください。

△ 新基準値が現行よりも下がることに、多くの消費者は賛成しているようですが、福島の生産者は風評被害に苦しめられることになるでしょう。消費者は、科学的データに基づいて、正しく判断する必要があります。食品安全委員会の健康影響評価については、科学的知見に基づいたもので、十分納得できるものだと思います。この内容を、いかに国民に広く知らせることができるかが重要であると考えています。

▽ 低線量放射線による影響がはっきりしていないことや、報道等で示される情報には、日常の暮らしになじまない言葉や数字による表現が多い、といった理由から、一般の消費者が不安に思うことが本当に多いと思います。食品安全委員会で示された健康影響評価結果は、放射性物質による影響を冷静に判断するための根拠のひとつになると思います。不安を感じている消費者はたいへん多いので、評価結果の理解が進むよう、十分な説明をお願いしたいと思います。

▼ 中立・公正に評価したと言われましたが、私たち一般の主婦にはそれが本当に中立・公正なのかわかりません。国にとって都合の悪いことは、私たちには伝えられないのではないかという疑いもあります。風評被害という話も出ましたが、私たちに正しい情報が伝わっていれば風評被害はおこらないと思います。私たちが正しく判断できるよう、情報提供をお願いしたいです。

● 食品中の放射性物質のリスクの捉え方について、特にお子さんへの影響は皆さん不安に思っていると思うので、その点についてもご意見をお聞かせください。

▽ これまで食品のリスクはゼロではないということを前提に、賢い消費行動のために取り組んできました。しかし、これまで向き合ってきた農薬や添加物のリスクと、放射性物質によるリスクを同等に考えることができるのか、非常に難しいと考えています。情報はあふれていますが、何を信頼したらよいのか、学習会に参加したり、本を読んだりしても、安心にはなかなか結びつきません。けれど、これから長期間、放射性物質と向き合わなければならないのが現実です。子どもを守ることをベースに、不安を取り除く取組をしていかなければならないと考えています。

▼ 小さい子どもを持つお母さんたちは、やはり内部被ばくに大きな不安を抱えています。北海道や九州の野菜・米を買っている、肉は国産でなく輸入品を選ぶようにしている、海の汚染が怖いので魚は食べない、加工食品は原材料の素性がわからないので不安だ、…といった話をよく聞きます。

▽ 生協としては、消費者の不安を解消するために、学習会の開催など、知ることによって安心につながるような取り組みを続けていきたいと思っています。みんなが安心できるシステムづくりに、消費者がどのように関わっていくかが重要であると考えています。行政に対しては、より一層検査体制を充実させて、消費者に対して十分な情報提供していただくことを望みます。これから新たな不安材料が出てくることも予想されます。行政には国民の不安に寄り添って対処してほしいと思います。

○ 食品安全委員会としては、今回のような意見交換会を含め、国民の皆様に対する説明を様々な形で行ってきました。科学的な情報も、できるだけわかりやすく示すよう努めていきたいと思っています。国のいうことは信じられないという声も聞かれますが、今回の健康影響評価の結果は、あらゆるデータをもとに、もちろん子どもへの影響も勘案した上でのものとなっています。

● **放射性物質について、正しい、信頼できる情報が求められているようですが、現在の情報提供のあり方についてはどのように感じていますか。**

▼ 子育て世帯ではインターネットを活用している人が多いと思います。インターネットの情報を、全部信じてしまうわけではないと思いますが、「○○には気をつけましょう」「××のときは、こうしましょう」など、具体的にわかりやすく示されていると、受け入れやすいのではないのでしょうか。それに対して、行政から発信される情報は内容が難しく、受け入れにくい感じがしてしまいます。

△ 消費者の多数は不安をもっているのが実態で、情報を求めています。しかし、インターネットを使える環境にない人もたくさんいるので、市町村の広報誌など、みんなが共有できるような情報提供が望ましいと思います。

□ 群馬県では、ホームページにおいてあらゆる検査結果を速やかに公表しているとともに、報道機関にも情報提供しています。インターネットを使えない人のために、「食の安全情報」という広報紙を発行しているほか、電話相談窓口を設置し、個別の相談に応じています。安心の提供には双方向性が大切であるため、こういった意見交換会も情報提供のひとつと位置づけ、実施しています。

【会場からのご意見・ご質問】

Q 県内各地の河岸や湖底に、相当量のセシウムが沈着していることが調査により確認されたようだが、空間放射線量が高くないから安全だといわれている。そんなはずはない。県内に放射性物質がどの程度飛散しているか、詳細な資料を提供していただきたい。

□ 航空機から調査したもの、あるいは環境調査など、検査の結果はすべてホームページなどで公表されているほか、報道機関においても公表されています。

○ 少し補足説明をさせていただくと、被ばくのイメージについて例をあげると、たとえば1 mSvを食品から被ばくしようとする、1kgあたり約8万Bqという量をとる必要があります。湖底の泥に数千Bq含まれていても、それを直接食べるわけではないので、健康に影響が及ぶような被ばくには、直接結びつかないと思われま

Q 食品に関しては検査体制の充実ということをよく聞きますが、減らす努力はされているのでしょうか。腐葉土に放射性物質が含まれていたという報道が以前ありましたが、今はどうなっているのでしょうか。汚染された肥料等が農地に入らないような手だてはされていますか。

□ 肥料や家畜に与える飼料についても、規制値が設けられており、適切に管理されています。

Q 100mSv以下は危険であることを示す、信頼できるデータはない、ということだったが、バンダジェフスキー氏の著書によれば、20Bq/kg（体重）で、まず心電図で何らかの異常が見られるという。となると、毎日1Bqでも体重の少ない乳幼児等はすぐに危険水準に達してしまう。われわれは一番深刻なデータを信用し、対策をとらざるを得ない。結局われわれ消費者が各自で判断し、ほとんどの人が0を目指すことになるのではないか。

○ そういったデータがあることは承知しています。しかし、評価の中で論文を採用するにあたっては、研究手法やデータの信頼性に問題があるという判断が専門家によってなされたため、採用されませんでした。現時点での最新の知見に基づいて評価をしており、また新たな知見ができれば随時見直していく予定です。（0を目指すというような）より安全側にたった予防管理については、リスク管理機関が適切に行っていくべきものと考えています。

● 最後に、アドバイザーの皆様から会場の皆様へ、一言お願いいたします。

△ 生協としては、引き続きスクリーニング検査を行い、さらに精度の高いゲルマニウム半導体による検査も行っていきます。政府への新たな要望書を提出し、様々な懸案をスピーディに進めるよう求めていきます。

▽ 安心して暮らしていくために、放射性物質に長く向き合う覚悟をして、生協として自分たちのできることにしっかり取り組んでいきたいと思えます。

▼ 自分たちでできることとして、NPO法人のホームページを使って、お母さんたちにもわかりやすく正しい情報を伝えていきたいと思えます。

○ 食品安全委員会ではみなさんのご理解を深めていただくために、これからも様々な形式の意見交換会を実施していくので、ぜひご参加ください。

□ 放射性物質に対する不安について、双方向のリスクコミュニケーションを行い、みなさんにご理解いただけるよう取り組んでいきたいと思えます。

以上